

国土交通省 防災教育ツールの紹介

国土交通省 水管理・国土保全局
防災課
砂防計画課



Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

1

資料内容



- 防災教育ツールの紹介と学校教育での活用方法(P3 ~ P4)
- 防災カードゲームの概要(P5 ~ P8)
- 防災教育動画の概要(P9)
- 防災教育ツールの入手方法(P10)

国土交通省では、子供たちが遊びながら防災について学ぶための防災教育ツールを作成し、防災教育ポータル※に公開しています。

本資料では、国土交通省の公開している防災教育ツールの活用方等について紹介します。

※<http://www.mlit.go.jp/river/bousai/education/index.html>

① 防災カードゲーム(概要はP5～P8で説明)

すいがい編



つなみ編



どしゃ
さいがい編



② 防災教育動画(概要はP9で説明)



水害に関する映像教材



土砂災害に関する映像教材

防災教育ツールの活用方法について

- 防災教育ツールを防災教育の授業の一環で活用したり、休み時間や放課後に生徒自らが使って遊べるようにすることで、楽しみながら防災に関する知識を学ぶことができます。
- 国土交通省の出前講座や教員が生徒に指導する形式の他、高校生が小中学生に指導する等、教える立場で活用することでも学習することができます。

学校教育での活用例

(カードの例)



防災教育の時間にグループを組んでカードゲームを体験し、災害から命を守るための知識や日頃の備えを学習

(動画の例)



防災教育の時間に防災教育動画を視聴し、災害から命を守るための知識や日頃の備えを学習

指導の例



国土交通省の出前講座



教員が生徒に指導



高校生が小中学生に指導

カードの構成

災害の種類1～7と、それぞれの災害ごとの発生の時系列A～Dで構成されています。
※すいがい編、つなみ編、どしゃさいがい編で共通です。



① 防災カードゲーム「このつぎなにがおきるかな？」遊び方例①

遊び方例① 7ならべ

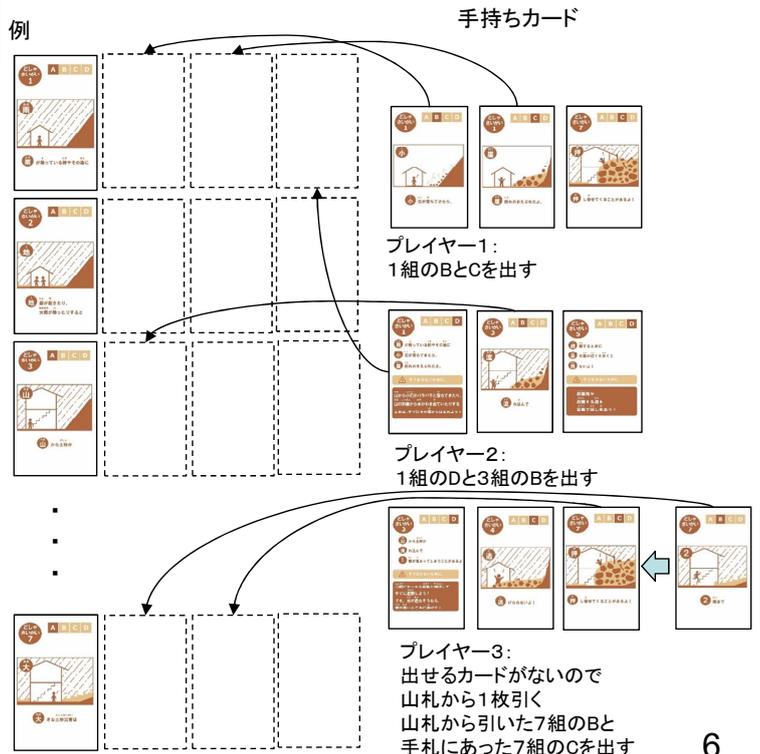
狙い
災害の種類ごとの前兆現象や避難のポイントを時系列で整理することで、避難の知識を学びます。

【進め方】 人数の目安: 2～4人

- ①Aと書かれたカードを1～7の番号順に横に並べます。
- ②プレイヤー全員に、3枚程度均等にカードを配ります。余ったカードは裏面にして山札カードにします。
- ③じゃんけん等で最初のプレイヤーが、手持ちカードの中からBと書かれたカードを場に出ているAのカード(同じ組のカード)にならべて出すことができます。同じ組のカードで、B→C→Dと続くカードを持っている場合は、1回の中で続けて出すことができます。無い場合は山札カードを引き、出されているカードに続くカードがあれば置くことができます。なければ引いた山札カードを手持ちカードにして(1枚増える)、次の人にパスします。
- ④2番目以降のプレイヤーは、③の繰り返しです。
- ⑤Dのカードを出したプレイヤーは、ABCカードのコメントとDカードの「！」マークコメント(そうならないために)を声に出して読み上げて下さい。
- ⑥最初に手持ちカードが無くなったプレイヤーが勝ちです。

【振り返り】

並べられたA～Dまでのカードをもとに、災害から気をつけること、逃げるための注意事項について、気づいたことを話し合います。



遊び方例② かるた

狙い
災害の種類ごとに前兆現象や避難のポイントを確認し、避難の知識を学びます。

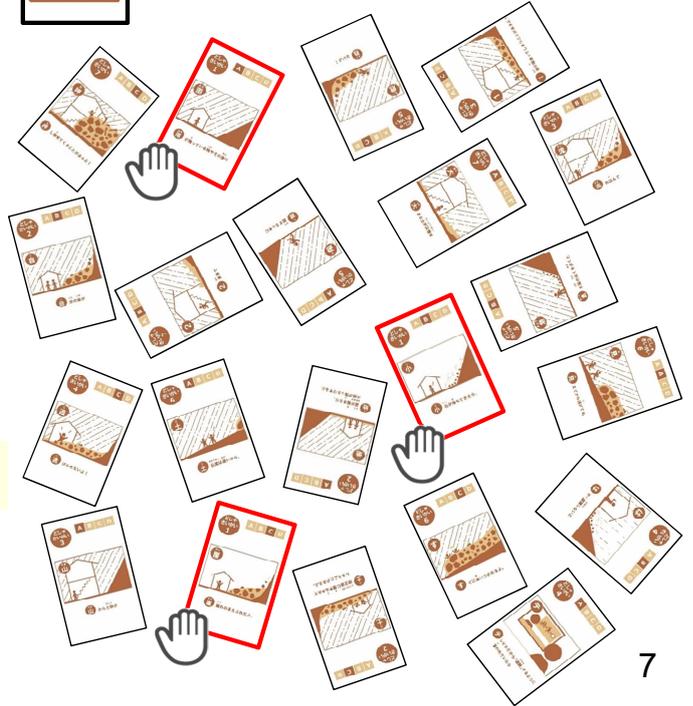
【進め方】 人数の目安: 3~6人

- ①Dと書かれたカードを「かるた」の「読み札」にします。
- ②残りのカード(A~C)をテーブルに並べ「かるた」の「取り札」にします。
- ③読み上げ係が、Dのカードに書かれたコメントを読み上げます。
- ④ほかのプレイヤーは、読み上げられたコメントと同じ組のカードを素早く取ります。
カードは、プレイヤーがABCをバラバラに取ることができます。一人のプレイヤーが一度にABCの3枚を取ることできます。
- ⑤取ったプレイヤー全員で、ABCカードのコメントとDカードの「！」マークコメント(そうならないために)を声に出して読み上げて下さい。
一番多くカードを取ったプレイヤーが勝ちです。

【振り返り】

並べられたA~Dまでのカードをもとに、災害から気をつけること、逃げるための注意事項について、気づいたことを話し合います。

例 読み札



7

遊び方例③ ババ抜き

狙い
災害の種類ごとの前兆現象や避難のポイントの関連を確認し、避難の知識を学びます。

【進め方】 人数の目安: 6~8人

- ①プレイヤー全員に、同じ枚数のカードを配ります。
このとき、「これぐらいならだいじょうぶかも…」カードも1枚混ぜて配ります(トランプのジョーカーの役割です)。
- ②おなじ組のABCDカードのうち、2枚のカードをペアカードとして、テーブルに置くことができます。(プレイヤー全員が見える場所に組ごとにABCDの順番で置いて下さい)
(ペアカードの例1:「どしゃさいがい1」の組「A」と「C」)
(ペアカードの例2:「どしゃさいがい3」の組「B」と「D」)
- ③じゃんけん等で最初の人、隣の人のカードを引きます。ペアとなるカードが引ければテーブルに置きます。
- ④これを繰り返して最初に手持ちカードが無くなったプレイヤーから抜けていき、最後に「これぐらいならだいじょうぶかも…」カードが手元に残ったプレイヤーが負けです。
負けたプレイヤーは最後に「だいじょうぶではありません!」と言って下さい。

【振り返り】

並べられたA~Dまでのカードをもとに、災害から気をつけること、逃げるための注意事項について、気づいたことを話し合います。



「これぐらいならだいじょうぶかも…」カード



ペアカードの例1

ペアカードの例2

② 防災教育動画の概要

水害、土砂災害時の危険な状況を理解し、命を守るための知識と日頃の備えについて解説しています。防災教育の授業の一環で活用することで、楽しみながら防災に関する知識を学ぶことができます

洪水から身を守るには ～命を守る3つのポイント～

災害時の危険なシーン
水害の危険なシーンを紹介



命をまもるためのポイント
命を守るためのポイント
について詳しく紹介



ポイント

- ① どんな危険があるのかを調べてお家で話し合おう
- ② 浸水がはじまるまえに逃げよう
- ③ 安全に逃げる方法をしっておこう

水防団の神様 ～山からの知らせ～

災害時の危険なシーン
土砂災害の危険なシーンを紹介



命をまもるためのポイント
命を守るためのポイント
について詳しく紹介



ポイント

- ① 災害が起きる前に避難しよう
- ② 早めの避難のために、雨や土砂災害の危険性を知らせる情報などをテレビやスマホ、ホームページなどで集めて、避難の判断の参考にしてみよう
- ③ 住んでいる町から「避難勧告」と「避難指示」の情報が発表されたら、安全を確かめながらすぐに避難しよう

防災教育ツールの入手先等について

○教員自身で国土交通省防災教育ポータルからツールをダウンロードし、授業等でご活用いただけます。

防災教育ポータル 検索
URL : <http://www.mlit.go.jp/river/bousai/education/index.html>



防災教育ポータルトップページ



防災カードゲームのダウンロード



防災教育動画の視聴・ダウンロード

○国土交通省では防災教育に関する出前講座も行ってまいります。

国土交通省各地方整備局等では防災教育に関する出前講座も行ってまいります。申込方法等については国土交通省webサイトをご覧ください。(各地方整備局の出前講座は、それぞれ独自に運営されております。お申込の際には各地方整備局担当者に十分ご確認下さい。)

国土交通省 出前講座 検索

